

尚絅学院大学 ボランティアチーム **TASKI**

「T」共に、「A」歩む、「S・K」尚絅、「I」愛(自ら)と、駅伝で人と人をつなぐ「たすき」の意味を込めたボランティアチーム TASKIの活動は、東日本大震災を契機にスタートしました。「つなげる・つたえる・つづける」の3つの「つ」を大切に、途切れない支援を目指すTASKIの活動をご紹介します。

「つなげる」のつ

1つ目の「つ」は、「つなげる」。
これまで仮設住宅や集会所に足を運んだり、大学へ仮設住宅の住民さんを招待する中で、住民さん同士の交流が生まれるよう活動しています。

「つたえる」のつ

2つ目の「つ」は、「つたえる」。
活動を通して、今の名取市閑上や住民さんたちの状況を多くの方々に知っていただくために、SNSなどで情報を発信しています。また、学習会やフォーラム、シンポジウムなどの場でTASKIの活動紹介を行ない、私たちの活動と共に、震災後「被災地」とよばれるようになった閑上のありのままの現在の姿を伝えています。

「つづける」のつ

3つ目の「つ」は、「つづける」。
「1回活動して終わり」ではなく、定期的に活動を続けることで被災地のかたちや住民さんたちの気持ちは変わっても、終わりのない「途切れない支援」を続けています。

TASKIの 主な活動内容

地元被災地(名取市)での支援活動

仮設住宅・復興公営住宅・集会所等での寄り添い支援

■ 住民さんとの交流

お茶会や交流会の開催、
町内会イベントへの参加など

■ カラオケ・演芸大会の開催

発信する・つなげる支援活動

他支援者・他大学との合同ボランティア活動・学習会

■ 閑上バスツアー学習会

現地視察、講話から学ぶ

■ フォーラムやシンポジウムでの活動発表

■ 他大学・高校との連携

合同学習会・ボランティア活動など

■ 招へい事業への参加

神戸・熊本などへの訪問、相互交流

■ 学内外研修会への参加

災害ボランティアセンター運営サポーター養成講座など

■ TASKIのミーティングや学習会

住民さん同士をつなげる、
住民さんたちの
コミュニティづくりの
お手伝い

人と人をつなげる

T A S K I
とも あり しょうけい
共に歩く尚絅愛(自ら)

自分たちがつたえる

変化に合わせた活動を
つづける

住民さんの様々な変化に合わせて、
一人一人の寄り添いを
継続し、支援活動を
途切れさせない



SNSや
発表をとおし、
今度は自分たちが
学びや被災地の
変化を伝える



ボランティアチームTASKIの活動の移り変わり—2011~2019—

東日本大震災から8年以上が経過した今も被災地での活動を継続しているTASKI。年を追うごとに内容はどう変化してきたのか、あらためて振り返ってみました。

2011年3月11日 東日本大震災発生

とにかくできることを

学生自らが被災地に赴き「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして活動開始。閉所される8月まで支援活動を行なう。その後、名取市内の仮設住宅にて活動を行なう。

当時の学生の「とにかく笑顔を取り戻したい」という強い思いから、「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして被災地に関わり、その後避難所から仮設住宅に移られた皆さんの日常を取り戻すための支援活動を行いました。



出所：東日本大震災アーカイブ宮城(名取市) 提供者：名取市

ボランティアチームTASKIが誕生し、名取市内の仮設住宅にて、学生主体のイベントを行なうようになりました。当時は愛島東部仮設(閉上で被災した方の仮設住宅)、植松入生仮設(様々な地域から来た方の仮設住宅)でのイベントが多く、カラオケ、体操、映画上映会、住民の方と食事を作るなど、様々なイベントを行ないました。また、学生は学都仙台コンソーシアムの「復興大学」という講座に参加するなど震災を学ぶ講座にも参加しました。



なんとか元気になってほしい!

学生ボランティアチームTASKI誕生! 名取市内の仮設住宅や集会所での体操や歌、学生主催のイベント活動(クリスマス、ひな祭りなど)で交流し、楽しい時間をつくるお手伝い。

2012

2013

一人にならないで!

仮設住宅支援の継続。おしるこづくり、書初め、焼き芋イベントなどの活動に加えて、畑作業、花壇作りなどを行なう。

一人で閉じこもらずに、集会所や畑などに顔を出してほしいという思いで、短時間でも回数を重ねた訪問で交流を続けました。



このまま同じ活動を続けてもいよいよ立ち止まった時期もありましたが、住民さんに寄り添った仮設住宅での支援活動を継続しました。



笑顔になってほしい!

学生主催のイベント活動だけではなく、仮設自治会の祭り支援など、より“支える”を意識した活動を実施。集会所でサークルができたり、仲良しグループができたりと住民さんたち自身がダンスや歌を楽しむなど主体的に活動することが増え、それを「お手伝いする」、「支える」という役割へと徐々に変化。

2014

少しずつ仮設住宅を出る住民さんが増えたり、次の住まいの話が出てくるなど、これからを考えるようになりました。仮設住宅を出た後の夢や不安に寄り添いつつ、支援の形も変化し始められました。



夢を力に!

ひとつひとつの仮設住宅への支援に加えて、仮設住宅間交流の場を設定するなど、仮設住宅を出た後の新しいふるさと、これからのコミュニティ形成への支援活動を実施。

2015

新しいふるさとへ…

仮設住宅から復興公営住宅等へと住民さんの住環境の変化に伴い、被災地の課題も変化。改めて“寄り添い”の大切さをチームで再確認し、長期的視野に立った支援について考えるように。

2016

新しいふるさとへ向け、カラオケ・演芸大会などのイベントを通して仮設間交流でのコミュニティ形成への支援活動を実施。住民さんが仮設住宅を出て、復興公営住宅へ引っ越すにあたって“寄り添い”の大切さをチームで再確認。住環境の変化にともなう被災地の課題に取り組みました。



イベントを通しての直接的な被災地支援は少なくなりましたが、他大学と協力して、共に被災地を訪問したり、「復興とは何か」、それぞれの考えを共有しました。



やっぱりつなげる つたえる つづける

仮設住宅の自治会や他の支援者の方々や協働しながら、住民の皆さんの“自らの復興”を支援。一方で次世代に震災を伝えるための学生の学び直しや、さらなる他大学の活動サポートも行なう。

2017

2018

復興ってなんだべ?

これまでの“寄り添い”支援を継続しながら、閉上の新しいまちづくりを応援。住民交流会などに参加し、新しい団地のコミュニティづくりのお手伝いを行なう。

これまでの活動経験を活かし、次世代や他の地域について活動も継続して行ないました。さらに神戸を訪問し、阪神淡路大震災の経験について知るなど他県の災害や経験、教訓、課題にも目を向け、自分たちの今後の活動について考えました。



新しい町づくりが進み始めた閉上で住民さんと共に活動することで、改めて“寄り添い”を続けることの大切さを実感しています。現在の生活に不安を感じる住民さんも少なくはありませんが、「住民さん自身が前に進んでいく」ことをサポートしていきます。



今の閉上見てけさいん!

町内会が発足し、住民さん主催のイベントが行なわれるようになり、5月には地域と行政・企業・学校などが連携した“閉上地区まちびらき”が開催された。住民さんに寄り添いながら被災地の今の姿を知り、伝えていく活動を継続している。

2019



ボランティアチームTASKIの活動の紹介

被災された住民さんの住環境の変化に合わせて活動をしてきました。ここではその一部をご紹介します。

名取市災害ボランティアセンター



名取市内仮設住宅等



名取市内復興公営住宅集会所等



楽しい時間と交流のきっかけづくり

仮設住宅の集会所でお茶会などのイベントを実施したり、自治会のイベントに参加することで、楽しくお話ししながら、住民さん同士の顔合わせや交流のきっかけづくりをしてきました。

- お茶会の実施
- 焼き芋大会やクリスマス会、書き初めなどのイベント
- 畑作業や花壇づくり
- 自治会のお祭り支援 など



話らい



楽しみ



やりがい・生きがい・目標のきっかけづくり

- 名取復興文化祭(音楽祭)
- カラオケ・演芸大会
- 集会所サロンでのダンスや歌の練習 など

名取復興文化祭(音楽祭)

歌やダンス、手芸などの発表会。楽しみを通してつながり、やりがいを見つけるための「きっかけづくり」をお手伝いしています。(2016~2018年、名取市サポートセンターどっとなとり共催)



応援



カラオケ・演芸大会

大学に住民の皆さんを招待し、本学の多目的ホールで実施しています。これまで13回開催し(~2019年2月)、多くの仮設間の交流の場を設定することができました。



歌・踊り



活力



自らの復興・新しいふるさとづくりの応援

住民さん自身による新しいまちづくりやコミュニティ形成を応援し、これまでの仮設住宅支援活動の中で続けてきた「寄り添い」の活動を継続しています。

- 新しい団地での交流会
- 町内会や住民さん主催のイベントのお手伝い など



つながり



交流



新たなコミュニティ



ボランティア学習会

被災地でボランティア活動を行なう心構えとして、実際に現地を訪問し、被災地の今の様子を自分の目で見て、あの日あの時のことを知り、復興とは何か、これからの災害への備え、教訓を学びます。

- 関東バスツアー学習会
- 他大学・高校との合同学習会 など



講師からあの日あの時から現在までのお話を聞く



復興とはなにか... 大学生にできることは何か...



他大学や高校との連携・交流

TASKIは県内外(兵庫や千葉、福岡など)の大学生や高校生との交流活動にも力を入れ、お互い訪問し合い意見交換や現地視察・合同ボランティア活動などを行なっています。招へいプログラムやシンポジウムを通して、神戸や熊本に訪問する機会もあります。また2018年からは神戸訪問プログラムを実施し、阪神・淡路大震災の教訓や経験を学んでいます。



復興公営住宅での合同活動

他大学や高校との連携・交流 (p27参照)

東北大学・仙台大学・東北学院大学(宮城県)
大学コンソーシアムひょうご神戸
多摩大学・法政大学(東京都) 敬愛大学(千葉県)
同志社大学(京都府) 聖学院大学(埼玉県)
西南学院大学(福岡県)
尚網学院高等学校・桜の聖母学院高等学校(福島) ほか



学生間ワークショップ
意見交換



復興大学
in 熊本



神戸訪問
プログラム

2011年 名取市 災害ボラセンの様子



最

初は、大学の生涯学習センターに通っていた受講生・市民の方々と学生で、各地からボランティアに来る方々のボランティア保険の登録や受け付け、資材班としてボランティアの際に必要な資材(長靴やスコップなど)の貸し出しや洗浄などを行ないました。大学再開後もまだまだボランティアの依頼がある中で、大学では申請を行なえば授業を休んでボランティアに参加することが出来る制度もあり、継続的に活動を続けることが出来ました。

大

学再開から約1年後、大学内にボランティアステーションが設置され、ボランティア団体として発足することになりました。チーム名はこれまで活動を行ってきた学生の皆で考えました。チーム名のTASKIは、駅伝などの際に手渡される「襪」(たすき)をイメージしており、つながる、つづける、縁をつなぐ、伝えるなど様々な想いが込められています。

column.2

先輩インタビュー

人間心理学科 2013年卒
齋 美紀さん

また、T(共に)、A(歩む)、S(尚)、K(綱)、I(愛・自ら)という意味も皆で考え、チームとして活動を行なってきました。



Q & A

- Q: 当時どのような気持ちからボランティアを始めましたか?
A: 知人の母(当時、関東の保育所に勤務)の話をきいて、「何かしなくちゃいけない!」とボランティアをはじめました。
- Q: 2011年当時、尚網からボランティアに行った学生は何人いましたか?
A: 最初はまばらでしたが、大学間でボランティアの声がけも行なったことから、参加する学生も増えていき、8月までに1,400名が参加しました。
- Q: ボランティアをされていて課題などはありましたか?
A: 名取市の沿岸地域で、津波により壊滅的被害を受けた関東や被災地の現状を見て、ボランティアに参加した方々の中には、ショックを受けてしまう方もいました。そのため、活動に参加した方々の精神面をケアするボランティア(ボランティアのボランティア)も必要なのではと、当時は課題となっていました。

ボランティアチームTASKIの 歴代活動パネル集—2012～2019—

仮設住宅等での 交流イベント



2013.3.9・10 キャンドルナイトIN関上
2013.3.11 名取市慰霊祭



2012.11.25 焼き芋づくり & 東北工業大学合同ベンチづくり
2013.2.17 おしるこ & 書道フェスティバル



2013.5.5 ボラステ学習会バスツアー
2013.6.1 東部花壇作り



2013.7.21 東部ミュージックフェスティバル
2013.8.11 キャンドルナイト



2013.11.17 焼き芋パーティー & フラワーポット

2014 自治会夏・秋まつり in 愛島東部仮設住宅



2015.5.16 春まつり in 愛島東部仮設住宅



2015.12.5 お茶会 in 美田園



2016 美田園北団地お茶会



2016.11.12～13 名取復興音楽祭2016



2015.6.20 TASKIカフェ in 愛島



2016.5.15 春まつり in 愛島東部仮設住宅

名取復興音楽祭・文化祭



2015.11.7～8 名取復興音楽祭2015



2018.9.1 名取復興文化祭2018

関上バスツアー学習会



2014.5.5 ボラスチ被災地バスツアー in 植松入生、愛島東部仮設



2015.5.5 関上バスツアー



2017.5.13 関上バスツアー

他大学との学習会



兵庫コンソーシアムワークショップ&ボランティア



2014.6.8 復興大学 in 東部



2016.5.5 関上バスツアー



2019.5.11 関上春のバスツアー



2018.8.25~27 兵庫・宮城学生ボランティア研修・交流プログラム



◀▲5月11日/交流会(関上中央集会所)

5月11日(土)の関上中央集会所交流会では、「関上地区まちびらき」当日に向けて、これまでの応援への感謝や関上から発信したいことを住民の皆さんに書いてもらいました。昔、駅などで見かけたなつかしい“伝言板”のように一人ひとりが書いたカードを貼り、「ゆりあげ伝言板」として皆の気持ちを発信しました。

東日本大震災から8年が経過した2019年5月26日(日)、「関上地区まちびらき」(同実行委員会・名取市主催)が行われました。支援いただいた全ての方々への感謝と復興した姿を見たいという思いを伝えるイベントに、住民さんと共に学生たちも一緒に参加しました。



▲5月26日/「関上地区まちびらき」イベントのサブ会場となった関上中央集会所。全国から来た方々からもメッセージをたくさん書いていただきました!

column.3

2019.5.26
関上地区まちびらき
ゆりあげ伝言板

